

【A年】

大齋節第一主日

四十日四十夜、わたしたちのためにみ子を断食させられた主よ、どうか己に勝つ力を与え、肉の思いを主のみ霊に従わせ、常にわたしたちがその導きにこたえ、ますます清くなり、主の栄光を現すことができようように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられるみ子イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は創世記第二章 四節から」

4 主なる神が地と天を造られたとき、5 地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。

6 しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。7 主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。8 主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。9 主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいさせられた。

15 主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようになされた。16 主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。17 ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

25 人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりしなかった。

1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

2 女は蛇に答えた。

「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。3 でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

4 蛇は女に言った。

「決して死ぬことはない。5 それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」  
6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。7 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

## 詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

### 第五編 一〜十二節

- 1 神よ、慈しみによってわたしを顧み＝ 豊かな憐れみによって、わたしのとがを赦してください
- 2 悪に染まったわたしを洗い＝ 罪深いわたしを清めてください
- 3 わたしは自分の過ちを認めています＝ 罪はいつもわたしの目の前にあります
- 4 わたしはあなたに罪を犯し、あなたの前で悪を行いました＝ あなたがわたしを審かれるとき、その審きはいつ

も正しい

- 5 わたしは生まれた日から悪に沈み＝ 母の胎に宿った時から罪に汚れていた
- 6 あなたは真心を、わたしたちのうちに望み＝ わたしの心の深みに知恵を授けられる
- 7 ヒソプで水を振り注ぎ、わたしの罪を取り去って＝ 雪よりも白くなるように、わたしを洗い清めてください
- 8 わたしに喜びと楽しみを聞かせ＝ 打ち砕かれたわたしを、また喜びで満たしてください
- 9 わたしの罪を見つめず＝ 犯した悪をすべてぬぐい去ってください
- 10 神よ、わたしのうちに清い心を造り＝ わたしのうちに正しい霊を新たにしてください
- 11 あなたのもとからわたしを退けず＝ あなたの聖なる霊を取り去らないでください
- 12 救いの喜びをわたしに返し＝ 喜び仕える霊でわたしを支えてください

## 使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第五章十二節から」

ら

- 12 このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪

によつて死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。13 律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。14 しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかつた人の上にも、死は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もつて表す者だったのです。

15 しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によつて多くの人が死ぬことになつたとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人のイエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。16 この賜物は、罪を犯した一人によつてもたらされたようなものではありません。裁きの場合、一つの罪でも有罪の判決が下されますが、恵みが働くときには、いかに多くの罪があつても、無罪の判決が下されるからです。17 一人の罪によつて、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。18 そこで、一人の罪によつてすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によつて、すべての人が義とされて命を得ることになつたのです。19 一人の人の不従順によつて多くの人が罪人とされたように、一人の従順によつて多くの人が正しい者とされるのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。  
ここで聖歌を歌う。

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第四章一節以下に記された主

イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、霊に導かれて荒野に行かれた。2 そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。3 すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」4 イエスはお答えになつた。

「人はパンだけで生きるものではない。」

神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」

と書いてある。」5 次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、6 言った。

「神の子なら、飛び降りたらどうだ。」

「神があなただのために天使たちに命じると、

あなたの足が石に打ち当たることのないように、  
天使たちは手であなたを支える』

と書いてある。』7 イエスは、『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある』と言われた。8 更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、9 「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。10 すると、イエスは言われた。「退け、サタン。

『あなたの神である主を拝み、

ただ主に仕えよ』

と書いてある。』11 そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」